

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0098号  
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成24年11月10日

# 解散か居座りか、断末魔の野田内閣

臨時国会が始まった。最大の焦点は会期中に野田が衆院を解散し、年内に総選挙があるか否かだ。石原慎太郎東京都知事辞任に伴う都知事選挙は12月16日に投票されるが、ここに来て衆院選とのダブル選挙となる可能性が俄かにクローズアップされてきた。もちろん解散するかどうかは野田佳彦の腹一つである。ただ政権を取り巻く状況をみると、解散を年明けに先送りしたところで、野田と民主党にとってプラスになる材料は皆無に等しく、むしろマインスマテリアルが増えるばかりだ。野田が合理的に考えるなら、年内の総選挙に踏み切った方が痛手が少ない、と判断する可能性は十分あるのではないかと。

編集人・戸出蒼流

## 自信を強める自民党

自民党にはもともと、本年度予算案にはムダやばらまきが多いので、1兆2000億円程度の減額補正予算を組めば特例公債法案に賛成してもよいとする柔軟対応論があった。総裁選当時は石破茂幹事長（左写真）もこの路線だった。ところが、安倍晋三総裁（左写真）が誕生してから、



石破茂幹事長（左写真）もこの路線だった。ところが、

「年内解散の確約がなければ特例法案に賛成しない」とハードルを上げ、強硬方針に転じた。だが、野田は頑として



野田は頑として応じない。そこで特例法案に賛成し、野田から解散しない理由を奪う太陽作戦に転じた。実際、安倍は10月31日、衆院本会議・代表質問で、特例公債法案や1票の格差是正、さらに社会保障改革に関する国民会議設置について「重要性を十分に認識して

いる」と述べた。表面的にはブレたとの印象もあるが、国会開会前と開会後で対応が変わるのは良くあることだ。開会前から「解散確約がなくても特例法案に賛成する」と言うわけもなく、国会が開催されたら、テレビ中継が入った審議で復興予算の流用問題や閣僚の不祥事と野田の任命責任などを追及したほうが失政を白日の下に晒すことができる。

野田内閣の失政を公にした後、採決はどうするかといえ、その段階でもう一波乱も二波乱もあるだろうが、野党があくまで反対すれば「国民生活を混乱させるのか」という批判が出るのは避けられない。そういうことから、自民党内には「当初の方針通り減額補正して賛成」という立場と「このまま成立させ、いざれ政権を握った後で修正すればいい」という両論がある。流れは「このまま成立、後で修正」という路線に傾きつつあるようだ。それは、次の衆院選で政権奪回は確実だ、と

## 3党合意と解散の因果関係

野党の賛成で特例公債法案が成立すれば、一票の格差是正のための「ゼロ増5減案」も通りやすい環境になる。そうなっても解散するかどうかは野田の腹一つだが、はつきりしているのは、野田がそこまで協力しても解散しなければ「近いうち解散はやっぱりペンだった」ということになる。さらに裏切られた野党内では、野田民主党に対する不信感が頂点に達し、金輪際民主党政権には協力しなくなるだろう。

安倍は総裁選から「3党合意を守る」という立場を貫いてきた。それは党代表を目指す党人として、谷垣前総裁（上写真）が苦勞して纏めた3党合意を破棄する、とは口が裂けても言えなかったから、安倍が3党合意について懸念を持ってなかったのかと



谷垣前総裁（上写真）が苦勞して纏めた3党合意を破棄する、とは口が裂けても言えなかったから、安倍が3党合意について懸念を持ってなかったのかと

言えればそうではない。たとえ

ば「デフレが続いていけば増税はできない」と公に表明している。また年金や高齢者医療のような社会保障の根幹について「予め3党で合意を得る」と将来の連立を匂わせるような表現になっていることにも不満を持っていた。

民主党との連立を明確に否定している安倍が、そういう懸念を飲み込んで特例法案に賛成しても、野田が解散に応じないとなれば、3党合意を守らなければならぬ理由は消えてなくなる。

## 衆参共倒れとなる民主

野田は、解散を年明けに先送りすれば、来年度の予算編成ができる。予算をばらまけば「野田政権がこんなに予算を計上しました」と恩を売ることはできるだろうが、その予算は「一時凌ぎの張りぼて予算」となるだろう。与党の過半数割れが目前に迫る中、予算案が来年の通常国会で衆院を通過するかどうかさえ覚束ない。まして来年度の特例公債法案は、ねじれ国会の下では成立しないからだ。

来年夏には衆院議員が任期満了になり、それまでに必ず総選挙はある。そのとき苦勞してまとめた税と社会保障の一体改革は自民党の3党合意破棄でご破算になり、予算をつくったところで所詮は「張りぼて」である。それで選挙

を戦えるかどうか、野田のよう  
なバカでも分かることだ。

次の総選挙で民主党の敗北が  
確実視される中、野田にとって  
ベストシナリオは自公民連立政  
権をつくって、その一角に食い  
込む以外にないが、解散を先送  
りすれば、その願いは虚しい夢  
と化す。来年夏の参院選とのダ  
ブル選挙になれば、衆参両院で  
共倒れという最悪のシナリオが  
待っている。つまり、解散先送  
りの代償は、野田の双肩に重く  
のしかかってくる。

逆に年内解散・総選挙に踏み  
切れば、野田はぎりぎりのとこ  
ろで3党合意の枠組みを維持し  
た形になる。安倍自民党の下で  
は、自公民連立政権は望めない  
だろうが、少なくとも3党合意  
を足がかりに、野党として一定  
の面目と存在感を保つことはで  
きる。

### 財務省に見限られた野田

野田政権を実質的に支えてき  
たのは、副総理の岡田克也（左



写真)でもな  
ければ、幹事  
長の輿石東（  
左上写真)で  
もない、他な  
らぬ財務省で  
ある。だがい  
まや財務省も  
完全に野田を

見限っている。それが証拠に自  
民党本部には財務省幹部がせつ  
せと通い、「予備費で景気対策と

はいかがなものか」と政権に対  
する不満をはっきりと口にして  
いるようだ。

予備費は、憲法第87条第1項  
で「予見し難い予算の不足に充  
てるため、国会の議決に基いて  
予備費を設け、内閣の責任でこ  
れを支出することができる」と  
定められている。この条文に従  
えば、IPS細胞を使った再生  
医療の研究開発費や震災復興の  
企業グループ補助金などが「予  
見しがたい」支出とは到底言え  
ない。

グループ補助金が足りなくな  
ったのは、そもそも復旧復興と  
関係ない支出に復興予算を流用  
したからだ。政権が役所の勝手  
な流用を容認しておいて、不足  
したから予備費で補填とは無責  
任にもほどがある、

次の政権を見越した財務省の  
自民党へのリップサービスとい  
う面は否めないが、予備費を財  
源とした景気対策に財務省が異  
論を唱えるのは、財政を預かる  
役所として当然のことだ。

前述したように石原慎太郎東  
京都知事（左写真)の辞任に伴  
う知事選は、来月16日に投票票



が知事選と同  
じ日に総選挙  
の投票票をぶ  
つける可能性

は全くないとは言えない。自民  
党や公明党が特例公債法案で妥  
協しない強硬方針を掲げる中、



いう実しやかな噂が永田町に流  
れているようだ。財務省が予算  
編成をサボタージュすれば、政  
権は運営できない。或いは舞台  
裏で野田に打撃となる情報を撒  
き散らす手もある。

野党の代表質問を聞く野田  
の目は宙を彷徨い、その表情  
は心此処にあらずといったレ  
ームダック状態（上写真)で  
今や野田の存在そのものが国  
民の政治不信の象徴となつて  
いる。国家と国民の利益を最  
優先するならば、一刻も早く  
野田に引導を渡し、民主党を  
崩壊させることが、日本再生  
への唯一無二の道である。

編集人・戸出蒼流

### 田中真紀子・暴走ババアの呆れた迷走



来春の開学を目指していた札幌保  
険医療大学、秋田公立美術大学、岡崎女  
子大学の3大学について、一旦は「認  
可しない」という判断を下した文科相  
の田中真紀子（上写真)が今月6日の  
記者会見で「近く（新しい大学設置認  
可の）審議会を立ち上げ、新基準を設ける。3大学は、この基  
準に照らして審査する」と言い出した。つまり再審査の結果、  
新基準に適合すれば3大学は来春開学できる可能性があるとい  
うことだ。これだけでも「明確な説明もなしに前言を翻した」  
と批判の対象となるが、7日の衆院文部科学委員会で「不認可  
の処分はしていない。世間は誤解している」と開き直るほどの  
厚顔である。まさに暴走ババアの面目躍如で、呆れた迷走ぶり  
だ。しかも、真紀子は6日の記者会見で「総理か  
ら『そのまま進めて下さい』とのお言葉を直に頂い  
ています」と強調した。だが藤村  
修官房長官（上写真)は記者会見  
で、この真紀子発言を否定し、7  
日の衆院内閣委員会で「マラソ  
ンで言えば42キロ地点に来たら、ゴ  
ールがない状況は困る」と述べ真紀子発言自体を全  
否定する姿勢を露わにした。非常識の塊の暴走大臣  
が迷走大臣に変わり、最後は捏造大臣に成り下がっ  
たという民主党お得意のバカバカしい話である。



で、この真紀子発言を否定し、7  
日の衆院内閣委員会で「マラソ  
ンで言えば42キロ地点に来たら、ゴ  
ールがない状況は困る」と述べ真紀子発言自体を全  
否定する姿勢を露わにした。非常識の塊の暴走大臣  
が迷走大臣に変わり、最後は捏造大臣に成り下がっ  
たという民主党お得意のバカバカしい話である。